

授業者 村上 弘樹
ALT Nicolas Verhoeven
6年2組教室

1 単元名 Welcome to our school. (Hi, friends!2 「Turn right.」 p.14-17)

2 授業構成

(1)教材の価値と魅力

本単元は学習指導要領第5学年及び第6学年の目標において、

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

に位置づけられている。また、外国語活動の目標は、三つの柱で成り立っている。

- ①外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める。
- ②外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
- ③外国語を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。

これら三つの柱を統合的に体験することで、中・高等学校等における外国語の学習につながるコミュニケーション能力の素地をつくろうとするものである。

本校の子どもたちは、昨年度にはちいきの学習（総合的な学習の時間）で年間を通じて鳥取大学の留学生と交流活動を行ってきた。活動ではそれぞれのグループに分かれて交流を行ってきたが、子どもたちは鳥取や自分たちのことを紹介する際には簡単な英語の表現やジェスチャーを使って活動を進めてきた。また、6年生になって旅の学校で山口、広島を訪れた際には、出会った外国人観光客に“Hello!”と気軽に声をかける姿を見ることができた。これらの様子からこれまでの外国語活動や学習活動を通じて積極的に外国の人と関わろうとする態度は養われてきていると考えられる。しかし、英語よりも日本語や身振りを優先してしまったり、挨拶の後に続く言葉が出てこなかったりと、「英語を使ってコミュニケーションを行った」というよりは、「外国の人とコミュニケーションをとることができた」という思いのほうが子ども自身には強いように思える。「もっと英語が話せるようになってみたい」、「外国の人にいろいろなことが聞けたり話せたりするようになってみたい」という思いを大切にしながら「英語を使ってコミュニケーションができた」という思いをより強くさせていくためには、子どもの英語の語彙や表現をさらに広げていくことが求められる。

本単元では、Hi, friends!2 「Turn right.」を活用しながら、自分たちの学校を紹介することを最終目標にして単元を構成している。国際化が進むわが国では、日本を訪れる外国人旅行者数、また日本人海外旅行者数ともに増加傾向である。本校では韓国の春川教育大学校附設初等学校との交流を続けており、本学級には、親善大使として昨年度訪韓した子どもも在籍している。また、家族で海外旅行を経験した子どもも少なくない。これらのことから今後も海外旅行の機会はさらに多くなっていくと考えられる。国内外に問わず、私たちは旅行の際には地図を使って目的地を目指すことが多いが、実際には地図には載っていない細かな道や建物などがあり、現地の人に行き方を尋ねる方がより確実な手段である。また、鳥取砂丘などの観光地がある鳥取県でも外国人観光客と出会う場合も予想される。以上のことから、国際化が進む社会において、これからの社会を担っていく子どもたちにとって外国の人に道を尋ね

たり答えたりしていく能力は必要なものとなることが考えられる。そこで、本単元では自分たちの学校という身近な場所を設定して道案内の表現に慣れ親しませていくことで、子どもが外国の人に対しても気軽に目的地への行き方を尋ねたり答えたりする態度を養っていき考えている。

(2) 子どもの共同的な学びの姿と学びを実現するための具体的な提案

現行の学習指導要領では、すべての教科領域において「言語活動の充実」を図ることを求めており、その確実な実施が必要である。外国語活動では、外国語（英語）を使って ALT や友だちなど他者とのかわりを通じた体験的な活動を充実させることでコミュニケーションへの積極的な態度の育成や日本と外国の文化についての理解が深まると考える。外国語活動における思考の根源となるものは、「伝えたい」という思いであると考え。これまでの活動や生活経験で慣れ親しんだ英語の語彙や表現を使って相手意識を明確に持って伝えようとする意欲こそ外国語活動では大切にしていきたいと考える。それらの活動の中で生まれる課題に対して、「どうやって伝えるか」を子ども自身が試行錯誤していくことで伝えられたときの達成感が得られると考えている。これらの活動を経ることで自らの考えを主体的に述べる意欲と態度、表現力を身に付けながら、「自分は外国語（英語）を使ってコミュニケーションを図ることができる」という自信を子どもに持たせていきたい。

本時の学習では、本校が交流を続けている韓国の春川教育大学校附設初等学校の友だちに学校紹介のビデオレターを作ることを最終目標として掲げ、慣れ親しんだ表現を使って「春川の友だちに学校を紹介する」という活動を設定した。このような活動で子どもが直面する課題が「語彙の少なさ」である。自由に考えるためには、その活動を支える知識が必要となるが、日常生活で英語の表現に触れる機会が少ない子どもにとっては語彙の少なさはこの活動の大きな壁となることが予想される。また、これまで子どもたちは、ワールド委員会の子どもが主体となって行っているワールドタイム（隔週水曜 8 時 15 分から 25 分まで）や JET との外国語活動の時間に様々な英語の表現を話したり聞いたり経験してきているが、それらを実際にコミュニケーションに使うことには、英語の意味が日本語と直結していなかったり英語を話すこと自体に抵抗を感じていたり英語への理解度や慣れ親しみには個人差がみられる。伝える活動に対しても、「失敗したらどうしよう」という不安が先行し、活動に対して消極的になってしまうことも考えられる。そこで、「行き方」「どんな場所（教室）か」を考える活動は、グループ（生活班 4～5 人）になって考えられるようにする。これにより、子どもがお互いに気軽に意見交換を行い、経験や理解の個人差を補い合いながら活動を進めていくことができると考えている。また、外国語活動では、「伝えたい」という思いを大事にしたいと考え、子どもが考えた言葉を英語で伝えられない場合には、ジェスチャーなどの他の方法も考えて良いなどの対応をしていきたい。子ども同士の話し合いが成り立たない場合には、ALT に尋ねたり、学校にある英語の本などを活用したりできるように環境を整えていきたい。文法などにはあまりこだわりすぎずに、子どもが「伝えられた」と実感できる体験が、次の活動への「伝えたい」という意欲につながると期待している。

3 単元の目標

- ・積極的に道を尋ねたり、自分達の学校内の施設について友だちと協力して紹介したりしようとする。
- ・目的地への行き方を尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。
- ・外国の学校の様子を聞き、日本語と英語の部屋などの言い方が違うことに気づく。

4 学習計画

第1時：どこにあるのかな？ “Where is the ～.”

第2時：道案内をしよう。 “Turn right.”

第3時：学校紹介をしよう①（本時）

第4時：学校紹介をしよう②

第5時：学校紹介をしよう③

5 本時の学習について

(1) 本時の目標

学校内の施設についての道案内や紹介を友だちと協力して考え、伝えようとする。

(2) 準備

- ・ 校内図
- ・ 各教室の写真（掲示用・カード）

(3) 表現

turn right/turn left/go straight/go up/go down

homemaking room/art room/medical room/library/class room/swimming pool/science room

gym/music room/computer room/rabbit house/cooking room/shotoku forest/toilet/

principal's office

(4) 本時の展開（○教師の意図 ◇協同的な学びへの支援 ◆個の探求への支援）

学習活動	教師の支援・意図
<u>1.greeting</u>	○しっかりと声を出して明るくあいさつしている子どもを認めることで、元気よく活動が始められるようにする。
<u>2.Activity 1</u> 【Oz time】 ①Reading with Nico ②Question (True or False)	○前時に学習した範囲を ALT と一緒に音読する。 ALT の発音や言葉の句切りなども意識できるように促す。
<u>3.Activity 2</u> 【Where is a treasure? (ヒントゲーム)】 ① ALT が出すヒントを聞いて、宝がどこにあるのかを考える。(2～3問程度) ② 代表の友だちが出すヒントを聞いて考える。(2～3問程度)	○時間を設定(10秒)し、クイズばかりに集中しないようにする。 ◆答えが出てこない場合や早く解答した場合には、他にどんなヒントが考えられそうかを考える。 ◆toilet とトイレの発音の違いや room と office の意味の違いを意識させることで文化や言葉の持つ意味について考えさせる。
<u>4.Activity 3</u> 【学校紹介をしよう】 ① グループで決めた教室への行き方と紹介を考える。	◇事前に作成した紹介VTRを流し、児童が活動の見通しを持てるようにする。

② グループごとに発表し，感想やアドバイスを交流する。 ③ アドバイスを参考にさらに工夫できることを考える。 <u>5.greeting</u> ○That's all for today.Good bye! S:Good bye.Thank you.	1 班：音楽室 2 班：飼育小屋 3 班：教室 4 班：体育館 5 班：校長室 6 班：給食室 7 班：尚徳の森 8 班：トイレ ◇英語の表現はできる限り用意しておき，最後の 1 文は自分たちで考えるように伝える。英語表現だけに頼らずジェスチャーなどで伝えてもよいことにする。また，様子を見て ALT に聞いてもよいことにする。 ◇紹介文が考えられたグループは参観者のところへ行き、紹介文を聞いてもらい感想やアドバイスをもらうように促す。 ○英語を使って目的地への行き方や紹介の表現を ALT や友だちからの助言を参考にして繰り返し練習することでその表現に慣れ親しませる。 ○本時のふり返りをしながら，次時の内容も伝えることで子どもが活動の見通しを持てるようにする。
---	--